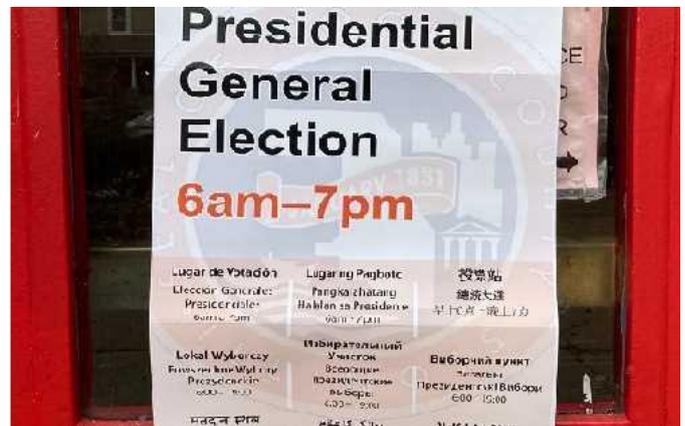


2024年11月27日

11月5日、出勤途中に近所の公民館、学校、YMCAに設置された投票所を覗いてみた。この界限では長蛇の列はできておらず、静かに整然とした雰囲気。初めて選挙権を行使する若者に対して「初めての投票おめでとう！」と拍手がわく。大統領選以外にも、連邦下院議員選、州議員選、裁判官の信任投票、州によっては連邦上院議員選や知事選もあり、A3程度の大きな用紙2枚に記入欄がびっしりある。間違えないように、自分が誰に投票するか、スマホで確認しながら書き込んでいる人も多い。



学校に設置された投票所



入り口に貼られた複数言語での案内

管轄10州内では、インディアナ州でブラウン連邦上院議員、ミズーリ州でキーホー副知事、ノースダコタ州でアームストロング連邦下院議員が新しい知事に選出された。3州とも共和党が強いと見られている州であり、共和党内の予備選で勝利していた候補が当選した。年明け1月に就任式が行われる。

任期を終えるノースダコタ州のバーガム知事は内務省長官に指名され、新設の国家エネルギー委員会のトップにも就任する。テキサス州の国境警備のために州兵を派遣したサウスダコタ州のノーム知事は国土安全保障省長官に指名された。サウスダコタ州では、ノーム知事の長官就任が連邦上院で承認され、ノームが知事職を辞すれば、今年6月に訪日したローデン副知事が知事昇格する。



バーガム・ノースダコタ知事



ローデン・サウスダコタ副知事

1 ミルウォーキー日本人会「ジャパンフェスト」(11月3日)

ミルウォーキー日本人会は、10年程度の活動後、高齢化やコロナ禍もあり、一時期活動を休止していたが、昨年、世代交代して活動を再開。数名の方がボランティアで運営しており、会費・会員制度・名簿はない。メールアドレスを登録した人に対して行事などの案内をしているとのこと。

11月3日(日)、ジャパンフェストに参加させていただいた。高校内の体育館程度のスペースのカフェテリアに、手作りのおにぎり・カレー・パン・焼きそばなどの食事・飲み物・デザート・物品などの販売ブースがおかれ、地元「響太鼓」、シカゴの阿波踊り「みこれん」、土曜会生徒による演奏・発表、参加方盆踊りなどが披露される。累計300名程度が来場。日本人・日系人より、その米国家族や日本に関心を持つ米国人の方の数が多い印象だ。

州都マディソンの日本人会の方も訪れ、両都市の日本人会と一緒に活動しようと合意したと聞く。総領事館としても、日帰り圏内であり、ウィスコンシン州の2大都市の様々な日本関連アクターを繋いでいくことに尽力したい。



2 アイオワ日米協会 SAKE イベント「Night in Izakaya」

11月8日、アイオワ日米協会の年間最大行事 SAKE イベント。今年は、天井高のある倉庫のような大きなパーティ会場に提灯を吊るして「居心地のいい居酒屋横丁空間」を作り上げた。様々な酒に加えて、協会事務局長の御子息が握る鮓、豚肉丼、焼き鳥、卵焼き、お好み焼き、団子などを提供。その他、SOTEN 太鼓、盆踊り、サイレントオークションなど盛り沢山の内容。

ここ数年、協会の活動が活発化。今回も、ビジネス会合と同日開催することで、州内の大学・姉妹都市・日系企業関係者などの参加を確保。企画力・行動力・求心力の高さに感嘆した。

水とコメを原料とする日本酒 SAKE は、日本各地の風土・気候も反映し、日本文化そのもの。SAKE を知ることは日本各地方を知ることにつながる。和食のみならず仏・伊・中など幅広い料理に合う。世界中で愛飲される「世界の酒」を目指して、ユネスコ無形文化遺産登録も目前だ。



3 「米国の冷蔵庫」 ミネソタ州出張（11月15～16日）

国際関係の非営利団体である「グローバルミネソタ」のアレンジで、日系企業 MGK（親会社は住友ケミカル）でのビジネスセミナーと、ミネソタ大学公共政策大学院で学生と住民を聴衆とした講演を開催した。聴衆からは、総選挙後の日本の政治状況、日韓関係、台湾有事の際の日本の対応、米政権手腕に対する評価、50年後の東アジア情勢まで、多岐に渡る質問がなされた。

土曜日、ミネソタ日本語補習校を訪問。保護者から成る運営委員会の方々から説明を受けつつ、各教室を御案内いただいた。運営委員・教員・各種委員会など、保護者全員が原則として何らかの役割を担っているとのこと。保護者の方々の強いコミットメントとオーナーシップを感じる。補習校は日系企業・駐在員にとっては頼もしい存在だ。生徒の中には、将来の日米間の橋渡しになっていく人もいるだろう。

ミネアポリス美術館のアンドレア・マークス学芸員が今年の外務大臣賞の1人に選ばれた。マークス氏は、日本美術専門家として、世界各地で美術展を企画し、計24冊の書籍を出版。ミネアポリス美術館が誇る日本コレクションも、マークス氏の貢献が大きいのであろう。

ミネソタ日米協会のガラは、副大統領や駐日大使を務めた故モンデール氏の名前を冠した賞と奨学金の授章式でもある。モンデール氏は引退後も、優しさに溢れた人物として多くの人に慕われ、次世代を育て、日本・ミネソタ間の草の根交流に尽力された。そして奨学金を受けた若者が将来の日米関係を引き継いでいく。

晩餐会では御子息と隣席した。お母様のジョアン・モンデールは美術の擁護者として「Joan of Art」と呼ばれ、大使夫人として日本美術を熱心に学んで陶器を制作するなど文化交流に尽力。帰国後は日本滞在中のエッセイ集も出版したという。前日に訪れた大学で、モンデール夫人の作品展示を偶々見つけた。“The arts are essential to our lives. They offer food for the spirit and the soul” – Joan Mondale とある。



マーク氏と御家族・御友人



日米協会ガラ



モンデール夫妻

4 セントルイス（11月20日～21日）

セントルイスは、北米最大規模の日本庭園、中西部最大の日本祭、今年50周年を迎えた諏訪市との姉妹都市関係を擁する。日系人のヌートバー選手が所属するカージナルスの本拠地でもある。

そして、30年前、当時の天皇皇后両陛下が国賓米国御訪問の際、中西部で唯一御訪問された場所でもあり、当時の記憶と足跡が残る。今回の出張中、図書館で1994年6月の現地紙の記事を見つけた。ゲートウェイ・アーチでの歓迎式典、セントルイス美術館での歓迎委員会主催レセプション、ミズーリ植物園での御視察と記念植樹と拝謁（植物園ボランティア・日系人・在留邦人）、ミズーリ歴史博物館での歓迎委員会主催昼食会との御日程。ブッシュ・スタジアムでカージナルス対パイレーツ戦を5回途中から御観戦され、電光掲示板に「両陛下を心から歓迎します」と日本語で表示されると、両陛下が大観衆に手を振られ、大観衆が拍手と歓声を上げた、と記事にある。

今回は、日米協会の晚餐会に出席した翌日、セントルイス大学の片桐教授に学生との対話をアレンジ頂いた。学部生中心だが、東アジアの安全保障環境、憲法改正問題、日本経済、グローバルサウスなどに関する質問が次から次に飛びだし、とても勉強していると感じた。問題意識も高い。はっとさせられる質問もあり知的格闘技だ。日米関係を含む将来の国際関係の担い手となる学生には「日本を含む国際情勢に関心を持ってほしい」「良質な世論の担い手になってほしい」とのメッセージを伝えた。しっかりと受け止めて貰えたと感じた。



日米協会の晚餐会



大学での学生との対話